

令和元年6月24日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02092

研究課題名(和文)ベトナムの「家訓」文献と伝統倫理の研究

研究課題名(英文)A study on "Family Precept" of Vietnam and traditional ethics

研究代表者

佐藤 トウイウェン (SATO, THUY UYEN)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：80734079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：筆者は本研究を全うするため、日本、ベトナム、フランスに資料調査に赴き、貴重な「家訓」文献、特に、ベトナムに所蔵されていない儒教の資料を閲覧、複写できた。それらの文献を整理した後、ベトナムの「家訓」文献の流布状況を紹介しつつ、これら諸文献のうち、主要文献につき作者、成立年代、文献学上の特色を実証的に考察すると共に、その記述内容、日本語の訳注を通してベトナムの伝統倫理、家庭教育およびベトナムの儒教の特色を明らかにした。本研究はこの「家訓」文献群をできるだけ網羅的に収集すると共に、それらにつき文献学的解題を作ったと考えている。これは今後の「家訓」研究、ベトナム伝統思想研究の基礎作業となるはずである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでベトナムの儒教は日本や朝鮮と違い、哲学理論化をさほど追求せず独自の儒教哲学をもたなかったとか、ベトナムの儒教は未発達だったとされることがある。しかし、それは「哲学理論としての儒教」に着目した意見であり、「社会教化の手段としての儒教」「倫理道徳としての儒教」としての在り方を見落としていると思われる。筆者が博士論文において考察した二十四孝説話や本研究でとり上げる「家訓」は確かに「哲学理論としての儒教」ではないが、むしろそれゆえに社会に広く受容され、ベトナムにおける儒教の普及に大きな役割を果たした。そうであれば、本研究は東アジアにおけるベトナムの儒教の特色を解明するのにも役立つことであろう。

研究成果の概要(英文)：To complete this study, I travelled to some of libraries in Japan, Vietnam and France to identify and copy the "Family Precept" texts and some of valuable Confucian materials which have not been stored in Vietnam. With this research, I clarified and shed light on the current status of the "Family Precept" of Vietnam, and after arranging the documents that could be copied, I only examined demonstratively a philological characteristic of representative texts such as clarifying publishing year, author's background. Throughout translating the contents of these texts in Japanese with notes, I clarified the Vietnamese traditional education and a characteristic of Vietnamese Confucian. This research focused on "Family Precept" and I think that I had collected all of texts which related to the "Family Precept" as exhaustively as possible and made a philological bibliography for them. This should be the basis for doing research into Family Precept and Vietnamese traditional thought in the future.

研究分野：思想史

キーワード：ベトナムの儒教思想史 ベトナムの伝統倫理・家庭教育 ベトナムの文化史 ベトナムの「家訓」文献 字喃資料 ベトナム語

1. 研究開始当初の背景

多くの研究者はベトナムの儒教が「科挙制度としての儒教」、「統治制度としての儒教」、「運動としての儒教」、「倫理道德としての儒教」という四つの主要的な役割を果たし、経書解釈や哲学的理論化よりも、社会的教化を特色としていたというのである。民衆レベルでは「倫理道德としての儒教」、「社会的教化としての儒教」が接受され、「孝」および「義」はベトナムの社会のすべての階級に覆っている。ベトナムにおける儒教に従い倫理道德を教化する内容は「修身・齐家・治国・平天下」という範囲に中心としている。ただし、従来の研究ではベトナムの「社会的教化としての儒教」にあまり注目しなかったようである。「修身・齐家・治国・平天下」という生きがいはベトナムの「家訓」にありありと刻んでいる。そして、「家訓」の内容は儒教の道にある「親子」、「兄弟」、「夫婦」、「親戚」、「村落」の道という人間関係に振る舞うことに焦点を当てている。「家訓」はかつてベトナムにおける家庭の倫理道德の規範書として大きな役割を果たした作品群であり、ベトナムの伝統的家庭教育の文化を形成すると同時に、家における孝子と、村、国における仁愛で「大義」の人を誕生させることに寄与した。漢文・字喃・現代ベトナム語の三種類の文字を用いて記されているこれらの多様な「家訓」文献の存在は、ベトナムの儒教の核心、すなわち、「孝」、「義」の思想が王族から庶民レベルまで広く普及し、ベトナム文化、道德の重要な伝統を形成した証拠といえる。

このようにベトナムの「倫理道德としての儒教」、「社会的教化としての儒教」を明らかにするため、「家訓」のベトナムの伝統的な家庭教育に関する資料、テキストを見落とすことができない。そこで本研究はベトナムの伝統的な家庭教育や「家訓」の社会的機能を一層解明するため、ベトナムにおける「家訓」を取り上げることとした。

2. 研究の目的

「家訓」は「儒教」に従いベトナムの伝統的家庭の倫理教育の内容を生き生きと反映している資料であるが、これまでその研究は日本でもベトナムでも十分なされていない。本研究ではハノイの漢喃研究院、ベトナム国家図書館、ベトナム社会科学情報院、ホーチミン市総合科学図書館およびフランス・パリの遠東学院などの所蔵する多くのベトナム「家訓」文献（漢文・字喃資料）に注目し、これら諸文献の作者、成立年代、変遷、文献学上の特色を実証的に考察するとともに、その記述内容を通してベトナムにおける伝統的家庭教育および「社会的教化としての儒教」、「倫理道德としての儒教」というベトナムの儒教の特色を明らかにする。同時に、ベトナムの儒教が中国の大きな影響下にあることにかんがみ、中国の「家訓」の比較も行いつつ、両国の伝統的な家庭教育の共通点および相違点を明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) ベトナムの「家訓」文献は現在114点の存在が知られており、まずそれらを網羅的に調査する。すなわち、ハノイ、ホーチミン、パリにおける関連所蔵機関に出向いてそれらを調査するとともに複写する。
- (2) それらの文献すべてにつき書誌事項を整理する。ついで「家訓」文献を3つ(第一類：王室のメンバーが編纂した「家訓」、儒者が編纂した「家訓」、ベトナムに流布した中国の「家訓」)に分類して内容的分析を行う。また、これらの文献は多く、漢字のほか字喃を使用していて難解であるところから、主要文献につき訳注を日本語で作成する。
- (3) 最後に「家訓」から見たベトナム人の「孝」思想を文化交渉学的視点から考察し、その機能と特色を明らかにする。

4. 研究成果

ベトナムに所蔵されている「家訓」文献については、先行研究により全47点であることが示唆されていることもあったり、漢喃研究院に所蔵されている字喃の「家訓」文献が全50点であると指摘したりして、一定していない。しかし、筆者の調査により、現在でも、ハノイの漢喃研究院、ベトナム国家図書館、ホーチミン市総合科学図書館、日本・東洋文庫、東京大学図書館、東京外国語大学図書館、京都大学図書館、大阪大学図書館およびフランス・パリのフランス極東学院、フランス国立図書館、大学間共同利用言語・文化図書館、ギメ東洋美術館図書館、パリ・アジア協会などに、約114点もの文献が所蔵されていることが明らかになった。そのため筆者は研究期間中、科研費（基盤C、課題番号JP15K02092、平成27年度～30年度）研究費のおかげで、筆者は日本国内だけではなく、ベトナム、フランス・パリにも資料調査に赴き、貴重な「家訓」文献、特に、ベトナムに所蔵されていない貴重な儒教の資料を閲覧、複写することができた。しかし、初めてフランス・パリに資料調査に行った時、さまざまな困難に遭った。それは『ベトナム漢喃遺産―書目提要』に記されている文献整理番号が、フランス極東学院に所蔵されている文献の整理番号と異なっているため、『ベトナム漢喃遺産―書目提要』の番号によってフランス極東学院の蔵書を検索しても探し出せないという問題が生じたのである。たとえば、Lap phong văn cáo『笠峰文稿』文献の場合、フランス極東学院の整理番号はMF-I.394であるが、一方、『ベトナム漢喃遺産―書目提要』に記されているこの文献の整理番号はPARIS. EFEO. MF. II/3/398である。また、複写できたそれらの文献を整理した後、ベトナムの「家訓」文献の流布状況を紹介しつつ、それらの文献を三種類（第一類：王室のメンバーが編纂した「家訓」、儒者が編纂した「家訓」、ベトナムに流布した中国の「家訓」）に分析した。研究期間の制限により、文献の数が多いためすべての文献を分析することができるわけない。そのため、筆者は第一類、第二類、第三類の「家訓」文献がそれぞれの代表的な文献につき、これらの諸文献の成立年代、作者の経歴、文献の内容を分析した。また、筆者はベトナムの「家訓」文献の流布状況、これら諸文献のうち、主要文献につき作者、成立年代、変遷、文献学上の特色を実証的に考察するとともに、その記述内容、日本語の訳注を通してベトナムの伝統女性観、ベトナムの儒教的な女子教育理念および伝統的家庭教育および「社会的教化手段としての儒教」、「倫理道徳としての儒教」というベトナムの儒教の特色を明らかにした。同時に、中国の「家訓」との比較も行いつつ、両国の伝統的な家庭教育の共通点および相違点を示すことが出来た。「家訓」はベトナムの伝統的家庭・倫理の様相を生き生きと伝える文献であり、数多く著述されたのにもかかわらず、これまでの研究は簡単な紹介レベルにとどまっている。また、文献学的な調査も決して行き届いてはいない。本研究はこの「家訓」文献群に焦点を当て、その文献をできるだけ網羅的に収集するとともに、それらにつき文献学的な解題を作ったと考えている。これは今後の「家訓」研究、ベトナム伝統思想研究の基礎作業となるはずである。

研究活動の成果は国内外（日本、ベトナム、中国、香港、イタリア）での国際学術大会、シンポジウムにおいて報告した。詳細は5.「主な発表論文等」には記述する。論文は『東西学術研究所紀要』（関西大学）『東アジア文化交渉研究』、呉晨編著『全球化視野下的中国儒学研究』（共著）（中国・孔学堂書局、2015年9月）吾妻重二編著『文化交渉学のパスペクティブ - ICIS 国際シンポジウム論文集 -』（東西学術研究所研究叢刊52）（共著）（関西大学出版部、2016年8月）などに投稿した。また、筆者の論文のうち、一本がフランスの Bibliothèque Universitaire des Langues et Civilisations（大学間共同利用言語・文化図書館）図書館にてベトナムを研究しているフランスの研究者、大学生に有益な情報を与えることが評価されたため、筆者の論文が当該図書館のホームページ（<https://bulac.hypotheses.org/5572>）に紹介された。さらに、

独立行政法人日本学術振興会から年度 28 年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)「学術図書」(課題番号 16HP5006)の助成を受けて、2017 年 2 月に東方書店より『ベトナムにおける「二十四孝」の研究』について刊行された。慶應義塾大学の嶋尾稔教授による書評「ベトナムの孝子説話に関する稀代の研究書:『ベトナムにおける「二十四孝」の研究』」(『東方』445 号、2018 年 3 月)は若干の問題点を指摘しつつも、全体として本書を高く評価してくれている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

2019 年

佐藤トウイウエン「梁文干と『梁温如家訓』について」、単著、査読有、『東西学術研究所紀要』第 52 輯、関西大学東西学術研究所、2019 年 4 月、229～247 頁

2018 年

佐藤トウイウエン「阮朝の綿貞皇子の「国朝女範演義詞」とベトナムの伝統女性観」、単著、査読有、『東西学術研究所紀要』第 51 輯、関西大学東西学術研究所、2018 年 4 月、327～350 頁

2017 年

佐藤トウイウエン「フランスの Bibliothèque Universitaire des Langues et Civilisations (大学間共同利用言語・文化図書館)に所蔵されている「訓女子歌」文献について」、単著、査読有、『東西学術研究所紀要』第 50 輯、関西大学東西学術研究所、2017 年 4 月、287～305 頁

佐藤トウイウエン「ベトナムにおける「詠二十四孝詩」と中越文化交渉」、単著、査読有、『東アジア文化交渉研究』第 10 号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2017 年 3 月、485～504 頁

2016 年

佐藤トウイウエン「ハノイ漢喃研究院蔵『五倫叙』をめぐって」、単著、査読有、『東西学術研究所紀要』第 49 輯、関西大学東西学術研究所、2016 年 4 月、373～394 頁

佐藤トウイウエン「ベトナムにおける「二十四孝別集」をめぐって」、単著、査読有、『東アジア文化交渉研究』第 9 号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2016 年 3 月、261～281 頁

2015 年

佐藤トウイウエン「鄧輝燿とベトナムにおける「二十四孝原編」」、単著、査読有、『東西学術研究所紀要』第 48 輯、関西大学東西学術研究所、2015 年 4 月、187～211 頁

佐藤トウイウエン「ベトナムにおける儒教と「二十四孝」」、『東アジア文化交渉研究』第 8 号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2015 年 3 月、277～294 頁

〔学会発表〕(計 12 件)

2018 年

佐藤トウイウエン「ベトナムの「家訓」文献から見た伝統倫理」、礼学および中国伝統文化国際学術研究大会、2018 年 11 月 10 日～11 日、於武漢大学

佐藤トウイウエン「ベトナムにおける『明心宝鑑』について」、東アジア文化交渉学会第 10 回国際学術大会、2018 年 5 月 12 日～13 日、於香港・城市大学

2017 年

佐藤トウイウエン「ベトナムの東京義塾の創立者である梁文玕と「梁温如家訓」について」、

第19回研究例会「東アジア宗教儀礼研究班」、2017年12月20日、於関西大学

佐藤トウイウエン「ベトナムに流布した中国の「家訓」文献と『朱子家訓』」、「回顧与展望：東亜視域中的朱子学与陽明学”国際学術大会」、2017年10月14日～15日、於復旦大学
佐藤トウイウエン「ベトナムの「家訓」文献から見た儒教的女子教育理念」、中国四国歴史学地理学協会2017年度大会、2017年6月11日、於広島大学

佐藤トウイウエン「阮朝（グエン）朝の綿貞皇子の「国朝女範演義詞」から見たベトナムの女性観」、東アジア文化交渉学会第9回国際学術大会、2017年5月13日～14日、於北京外国語大学

2016年

佐藤トウイウエン、“Survey of the current status of the “Family Precept” of Vietnam held in Paris, and “The poems about morals for women” text held at Bulac”、ベトナム学第5回国際学術大会、2016年12月15日～16日、於 Vietnam National Convention Centre

佐藤トウイウエン、“Survey of A simplification of The rules of morals for women (「女則演音」) held at the University Library for Languages and Civilisations Studies (BULAC) in Paris”、Seventh Italian-Japanese-Chinese Researchers Seminar on Language and Culture Relations、2016年9月12日～13日、於Sapienza University of Rome

佐藤トウイウエン、「フランスの Bibliothèque Universitaire des Langues et Civilisations (大学間共同利用言語・文化図書館)に所蔵されている「訓女子歌」文献について」、東アジア文化交渉学会第8回国際学術大会、2016年5月8日～9日、於関西大学

2015年

佐藤トウイウエン「ベトナムにおける「家訓」文献」、**ICIS** シンポジウム文化交渉学のパースペクティブ、**2015年7月18日～19日**、於関西大学

佐藤トウイウエン「ハノイ漢喃研究院蔵『五倫叙』をめぐって」、東アジア文化交渉学会第7回国際学術大会、**2015年5月8日～9日**、於神奈川県開成町

佐藤トウイウエン「**20**世紀初頭ベトナムにおける漢文教育をめぐって」、二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室主催「平成**26**年度国際シンポジウム「戦間期の東アジアと漢学」」、**2015年2月21日**、於興譲館高等学校

〔図書〕(計3件)

佐藤トウイウエン、東方書店、『ベトナムにおける「二十四孝」の研究』、単著、2017年2月、総ページ数504頁

吾妻重二編著、関西大学出版部、『文化交渉学のパースペクティブ - ICIS 国際シンポジウム論文集 - 』(東西学術研究所研究叢刊52)(共著)、2016年8月、佐藤トウイウエン、「ベトナムの「家訓」文献」担当、419～468頁、総ページ数469頁

呉晨編著『全球化視野下的中国儒学研究』(共著)、中国・孔学堂書局、2015年9月、佐藤トウイウエン「越南儒教的研究状況—以“孝”的思想为中心」担当、496～509頁、総ページ数582頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

【書評】

慶應義塾大学の嶋尾稔教授による書評「ベトナムの孝子説話に関する稀代の研究書：『ベトナムにおける「二十四孝」の研究』」、『東方』445号、2018年3月

【学外学術活動】

- ・2019年3月15日から25日まで：フランス極東学院、フランス国立図書館、フランス・パリの大学間共同利用言語・文化図書館、Asiatique Societeにて資料調査
- ・2019年2月16日から22日まで：ベトナム・漢喃研究院、ベトナム国家図書館、ホーチミン市総合科学図書館において資料調査予定
- ・2016年9月14日～9月15日：ローマ国立図書館およびバチカン図書館にて資料調査
- ・2016年9月3日～9月10日：フランス極東学院、フランス国立図書館、ギメ東洋美術館図書館、フランス・パリの大学間共同利用言語・文化図書館にて資料調査
- ・2015年9月4日～9月14日：フランス極東学院、フランス国立図書館、ギメ東洋美術館図書館、フランス・パリの大学間共同利用言語・文化図書館にて資料調査
- ・2015年8月13日～8月24日：ベトナム・ハノイ漢喃研究院、ベトナム国家図書館、ベトナム社会科学情報院、ホーチミン市総合科学図書館にて資料調査

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。